

瀬戸内タウンミーティング（美和地区）

平成 21 年 10 月 20 日（火）19 時～21 時

瀬戸内市長船町公民館美和分館 会議室

参加者：男性 10 人、女性 7 人、計 17 人

市民から出た意見と市長の反応

- ・資料に 30 年後の子ども、という区分があるが、子どもの気持ち、子どもの意見をアンケートなどで聴いてほしい。

（市長）アンケートはやっていないが、意見を聴く機会をつくりたい。今の子どもたちに集まっていただく場を用意したい。

- ・素案はいいものだが、財政が大丈夫かと気になる。

（市長）財源のやりくりが難しいと感じている。全部いっぺんにやるのは無理だが、いかに賢く使うか、そして市民のみなさんにもお願いしなくてはならない部分があると思っている。

- ・経済が破綻しないようにしてほしい。

（市長）破綻すると将来に負担を残すことになる。それは避けなくてははいけない。

「将来の世代に借金を多く残さないまち」

- ・タウンミーティングはいろいろな人が集まってやるべき。若い人が少ない。

（市長）PR については、回覧板と山陽新聞の記事掲載で行った。もっとたくさんの人に来ていただけるようにしたい。また、今回 1 回限りではなく、今後継続して開催することで市民の関心を高めていきたい。また、こちらから直接お願いをして「子育て世代」などのグループごとに意見を聴く「みらい会議」を別に開催する予定にしており、タウンミーティングにどうしても来れない人の意見を聴く機会を設けることにしている。

- ・市の職員がどの程度きているのか。職員の意識改革も必要。地域でできることについて、職員の人からアドバイスがもらえればいい。

（市長）市職員の力を引き出すのが市長の仕事と考えている。勤務時間外ということで強制的に動員をかけることは難しく、参加のお願いをしている状況である。他の地区では職員の参加もあった。これからは職員への働きかけや、積極的に参加してもらえる仕掛けづくりに取り組みたい。

「市民が積極的にまちづくりに参加するまち」

- ・ 病院へ地域の人が連れて行ったりしている。もっと同居する家族を増やすことができないだろうか。

(市長) 同居家族を増やすための方法は考えていきたい。真庭市など女性 1 人あたりの出産数が多いところは同居の家族が多いと思う。高齢者や子どもの見守りが家族でしやすくなるという理由からだと思う。

「同居する家庭が増えるまち」

- ・ 広報で市長が「市民病院にもっと行っていただけるようにしたい」と言っていた。そのためには病院の内容が良くないといけない。職員の対応をよくしてほしい。職員教育をすることで、気持ちよく病院に行くことができる。

例：あいさつをしない、病室にノックせずに入ってくる

(市長) 人材育成はぜひ取り組みたい。可能なところは市長が講師として研修を行ううえ、外部から講師を招いた研修も実施したい。また、職員同士が学びあい、教えあう仕組みをつくっていきたいと考えている。病院だけでなく、市役所全体の問題と捉えて取り組みたい。経験から、意識を変えるには 3 年かかると見ている。あいさつについては市民のみなさんにもお願いをしたい。市全体があいさつを通じたコミュニケーションをとれるまちにしたい。

「職員があいさつするまち」

- ・ 今の病院はちょっとした病気などで利用している。病院の質を上げてもらいたい。岡山の病院に行くと交通費がかかる。地元がいい病院があれば行く。

(市長) 今の市民病院は古い建物のため、耐震基準を満たしていない。10 年後に市民病院を残すなら、建て替えなくてははいけない。

→ ・ この人口で病院を維持することを考えると、ハコはあってもいい先生が来てくれないのではないか。

→ ・ 老老介護など、足の無い人が市民病院へ行っている。入院施設は必要と感じているが、110 床も必要か疑問がある。診療科も必要、不要があると思う。

院長は 2 人も要らないのではないか。

(市長) 瀬戸内市内でも今城地区や行幸地区の人は西大寺や岡山の病院に行く。70 歳を過ぎたあたりから、近くで入院できる病院がほしいという声を多く聞く。病院についてはアンケートをやって、どんな医療サービスが必要か市民に聴くことにしている。いい先生に来ていただくためにはある程度お金が必要。また新しい施設の方が来てもらいやすい。ただ、長い目で見ると施設は必ず古くなるため、建て替えても将来同じ問題が起こる。ベッド数について

は 110 床ありきではない。ニーズにあったベッド数を考えたい。今は病院事業管理者に努力していただき、いい先生に来ていただいている。今後もいい施設、いい医者確保して患者を集めていく努力を進めたい。

「診てもらいたくなる病院のあるまち」

- ・病院事業管理者の任期が来年で終わるが、そのまま辞めていただくのか。給料並みの仕事をしているように見えない。黒字になったという広報記事を見たが、本当のところの数字が見えてないように感じている。

(市長) 入院している人や職員、医師が混乱しないようにするのが一番。議会とも相談して決めたい。

- ・職員がコミュニティを担当する制度をつくってほしい。意見の吸い上げや様々な課題について対応策をつくる職員組織をつくってほしい。

(市長) 地域の問題は縦割りの組織では無理。市職員 OB も含めた地域の問題解決を担う職員集団をつくることも考えたい。

- ・市長在任中に「これだけはどうしてもやりたい」というものがあれば教えてほしい。

(市長) フェアなルールづくり、そしてそこで活躍する人を育てることがやりたい。「コネなどを使って、自分だけ得をする」というのはフェアでは無い。

- ・病院や買い物に行くための足が無い年寄りが多い。何とかならないか。

(市長) 他の地区でコミュニティバスをやってほしいという意見があった。かつて長船でやっていたが止めた。運営主体を含めて、課題が多い。外出することで生きがいづくり、健康づくりにつながるので、方法を考えたい。

「気軽に買い物ができる、病院に行けるまち」

- ・5 年後、10 年後を見た、過疎地域を考えてほしい。

(市長) 解決策のひとつとして、移住者を受け入れることになるが、地域が「よそ者だから」といって排除したりしないか、という問題がある。

→ ・仕方ないと思う。農業をやってくれとは言わない。村に入って、地域を支えあってほしい。

「外から人が移住できるまち」

- ・副市長さんとも雑談や飲み会を通じて、どんなことを考えているのか知りたい。

(市長) ひざを交えた話し合いを持ちたい。11 月 1 日以降、ぜひ呼んでほしい。

- ・ 50 年ぶりに埼玉から帰ってきたが、昔の村の付き合いが残っていたことがうれしかった。干渉もするが、心配もしてくれる、そんな心の持ち方が重要だと思う。埼玉県では子どもたちがまちの運営を行うトライアルをやっていた。ゲーム感覚でまちづくりに関心を持ってもらういい取り組みだと思う。また、都会では子どもに「知らない人に声をかけるな」と教えている。あいさつをお互いにしなくなる理由のひとつだと思う。
- ・ 役所の縦割り、前例主義は改めてほしい。

「昔の村のつきあいが残るまち」

「子どもにまちづくりを考えさせるまち」

「縦割り、前例にとらわれないまち」

(市長) 地域でも、地域同士の連携や、新しいことをやっていくための障害として（地域の）縦割り、前例主義がある。

市役所では、今度、縦割りでは解決できない課題について横断的に取り組む戦略会議をやる。新しいことをやるには勇気が必要だが、やってみないと問題がわからない。独自のチャレンジをする姿勢を持ち続けたい。